



Interface to the Future
- Solution by Smart Connectivity -

ザインエレクトロニクス株式会社 2023年12月期 通期決算説明資料

2024.02.02

中期経営戦略 2022-24

5G&Beyond-NE

TODAY'S AGENDA

- 会社概要
- 2023年12月期通期業績概要
- 中期経営戦略「5G&Beyond-NE」

TODAY'S AGENDA

- 会社概要
- 2023年12月期通期業績概要
- 中期経営戦略「5G&Beyond-NE」

会社概要

Interface to the Future “高速情報伝送の世界標準技術等、独自の価値を世界市場に提供”
- Solution by Smart Connectivity -

- 社名 ザインエレクトロニクス株式会社
 (英名：THine Electronics, Inc.)
- 代表者 代表取締役会長 飯塚 哲哉
 代表取締役社長 南 洋一郎
- 創業理念 「人資豊燃」
- 資本金 11億7,526万円
- 創業 1991年5月 ((株)ザイン・マイクロシステム研究所)
- 株式公開 2001年8月 東京証券取引所 (スタンダード)
- 事業内容 ミックスドシグナルLSIの設計開発・製造・販売
AI・IoTソリューション開発・提供
- 従業員数 133名 (2023年12月末日現在、連結ベース)
※『健康経営優良法人2023』認定



事業拠点

韓国 - Korea -



ザインエレクトロニクスコリア
(THine Electronics Korea, Inc.)
韓国ソウル市 2010年3月 設立

中国 - China -

賽恩電子香港股份有限公司
(THine Electronics Hong Kong, Co., Ltd.)
2012年11月 設立
前海賽恩電子(深圳)有限公司
(THine Electronics Shenzhen, Co., Ltd.)
2013年5月 設立
同社上海分公司
2013年10月 設立



東京本社 - Tokyo -

東京都千代田区
1991年5月 創業

台湾 - Taiwan -



哉英電子股份有限公司
(THine Electronics Taiwan, Inc.)
台湾台北市 2000年9月 設立

米国 - United States -

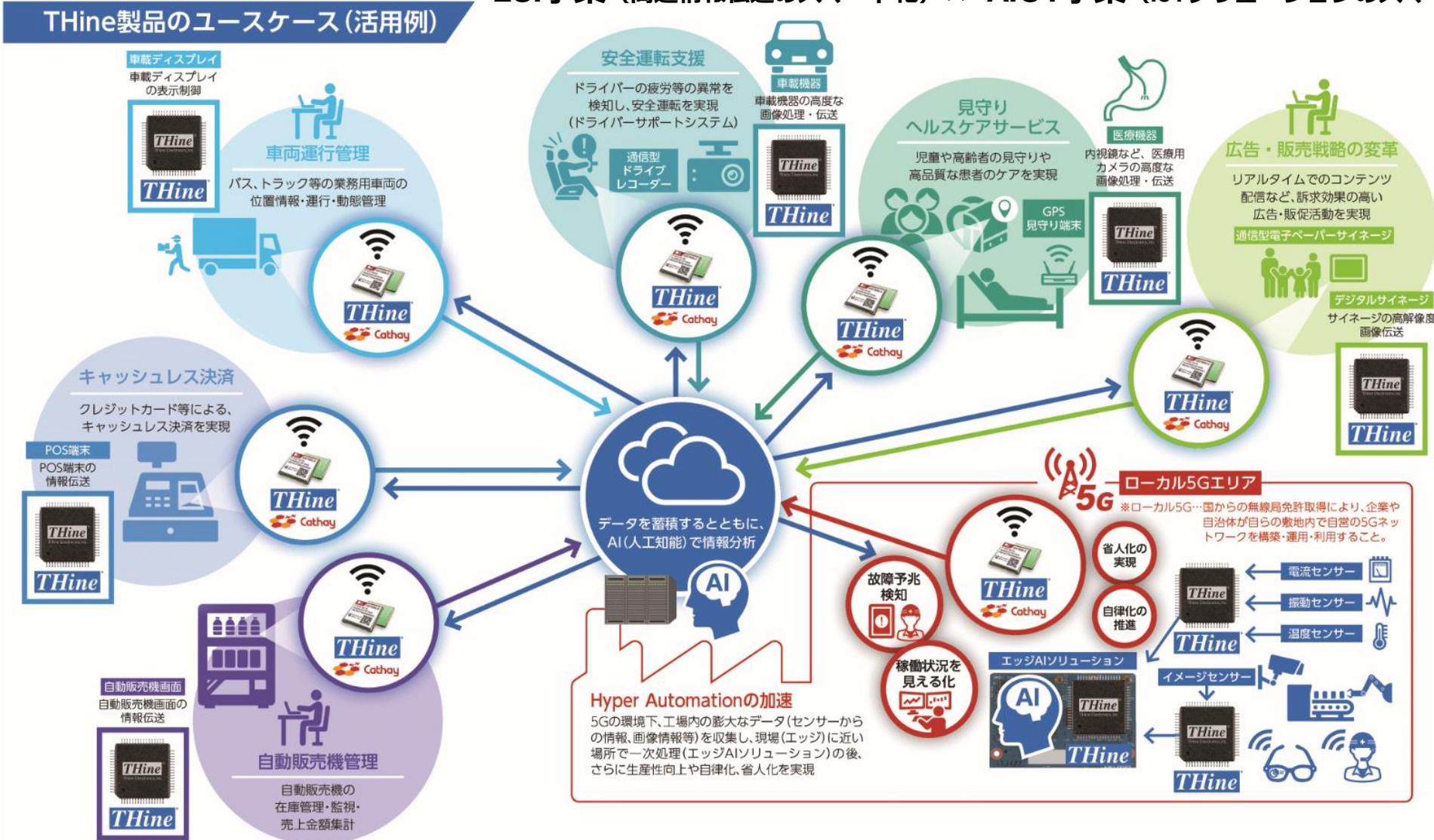
THine Solutions, Inc.
アメリカ合衆国 カリフォルニア州
2018年2月設立

キャセイ・トライテック(株)
- Yokohama - 

Cathay Tri-Tech, Inc.
神奈川県横浜市
2018年12月連結子会社化

事業領域

LSI事業（高速情報伝送のスマート化） × AIOT事業（IoTソリューションのスマート化）



事業領域

製品・ソリューション

THine

LSI
事業

<高速インターフェースLSI>

V-by-One[®] HS plus
V-by-One[®] HS

LVDS

Serial Transceiver IOHA:B

<カメラソリューション>

Image Signal Processor
Camera Development Kit



適用アプリケーション例

- ・ 事務機器（複合機（MFP）等）
- ・ アミューズメント機器
- ・ カメラ（車載カメラ、セキュリティカメラ、AR/VR、認証用カメラ、手術用カメラなど高精細カメラ）
- ・ 8K / 4Kなど高解像度映像機器、ゲーミング機器
- ・ ドライブレコーダ、EVなどの車載表示装置
- ・ モバイル・PC、シングルボードコンピュータ
- ・ 半導体・液晶ディスプレイ等検査装置

THine

AIOT
事業



<通信モジュール>

5G/LTE/NB-IoT

<AI・IoTソリューション>

IoTゲートウェイ/ルータ

IoTデバイス

AI顔認証ソリューション開発



- ・ 通信機能付きドライブレコーダー
- ・ AED（自動体外除細動器）遠隔監視
- ・ IPトランシーバー
- ・ 自動販売機、エレベーター遠隔監視装置
- ・ 見守りGPSトラッカー、地域見守りネットワークシステム
- ・ AI顔認証型体温検知システム
- ・ IoT温度監視システム

TODAY'S AGENDA

- 会社概要
- 2023年12月期通期業績概要
- 中期経営戦略「5G&Beyond-NE」

'23年12月期通期業績のポイント①

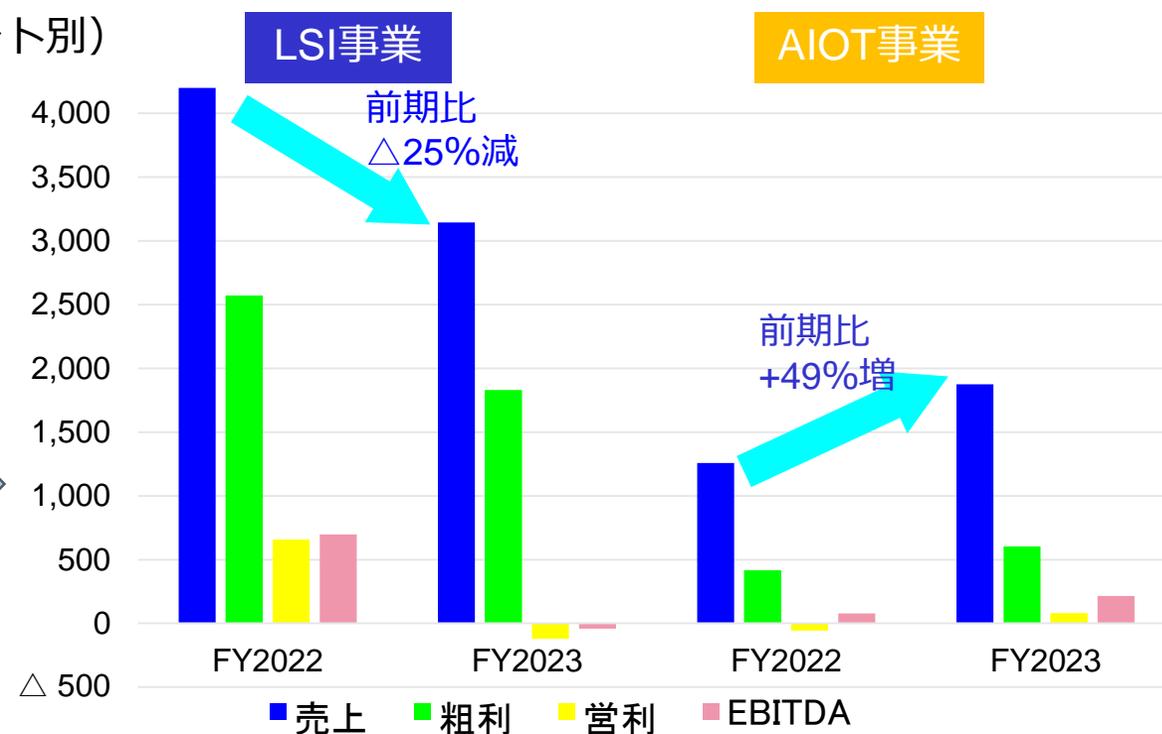
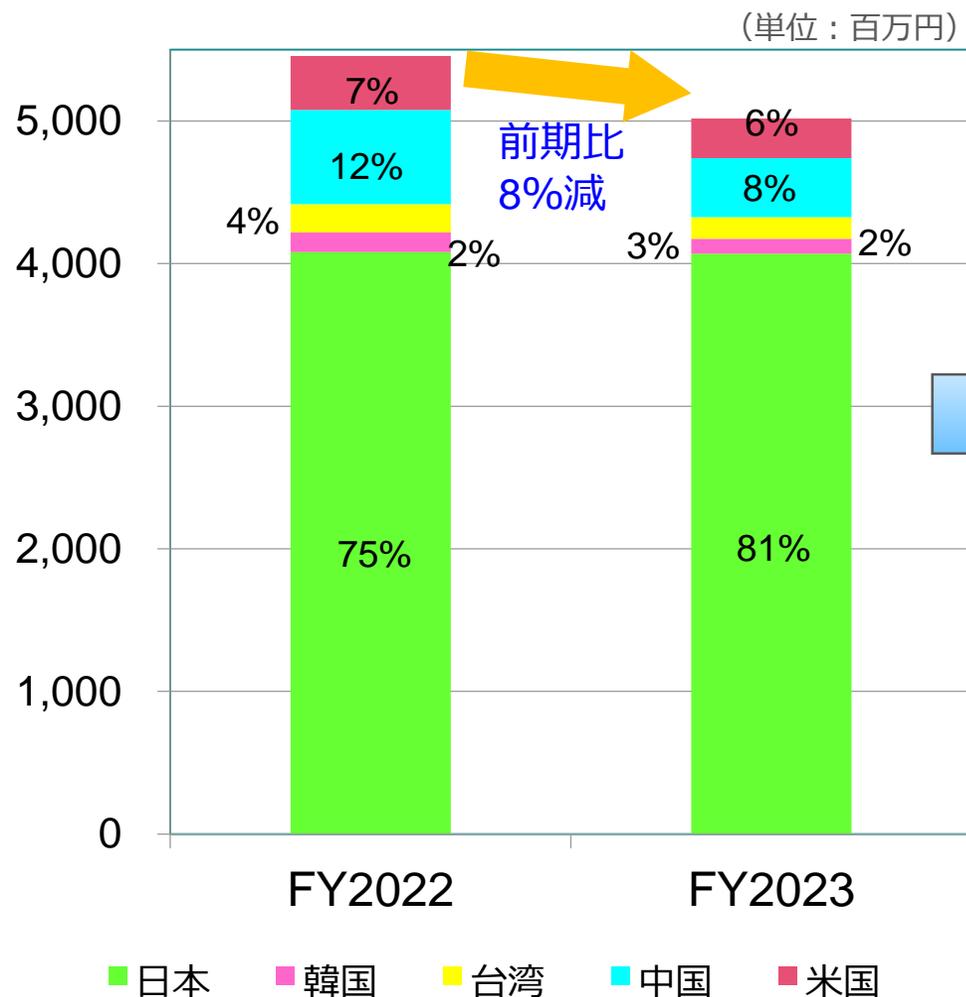
▶ 連結業績概要（2023年12月期）

（百万円）

	2023年			2022年	
		構成比	前期比		構成比
売上高	5,018	100.0	92.0	5,456	100.0
売上総利益	2,435	48.5	81.5	2,987	54.8
販売管理費	2,476	49.3	103.8	2,386	43.7
（うち研究開発費）	1,102	22.0	109.1	1,009	18.5
営業利益	△40	△0.8	—	601	11.0
（EBITDA）	173	3.5	22.4	775	14.2
経常利益	71	1.4	7.9	906	16.6
参）経常利益（為替差損益を除く）	△32	△0.7	—	636	11.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	△69	△1.4	—	820	15.0

'23年12月期通期業績のポイント②

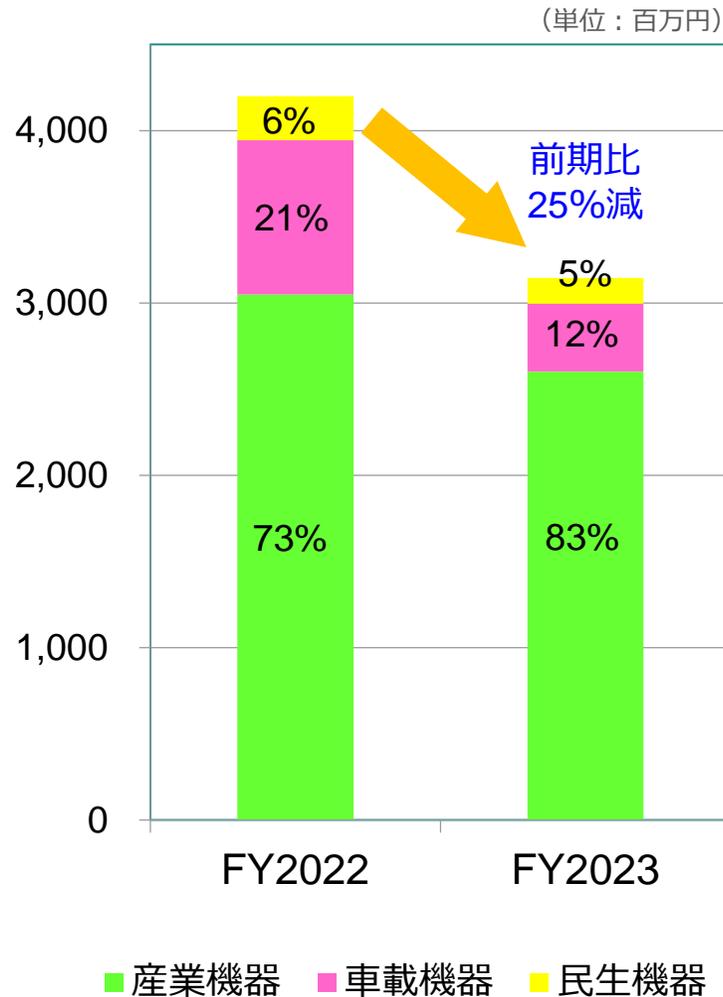
▶ 2023年12月期通期売上分析 (地域別・セグメント別)



- LSIはアミューズメント向け好調もOA向け等での顧客在庫調整の影響が大きく売上は前期比減収、AIOTは前期比大幅増収を実現、連結売上は前期比8%減。
- LSI事業より相対的に低利益率のAIOT事業が大躍進したことにより、連結ベースの売上総利益は前期比18%減。
- AIOT事業はのれん償却後で事業黒字化を達成。

'23年12月期通期業績のポイント③

▶ LSI事業売上分析（アプリケーション・市場別）

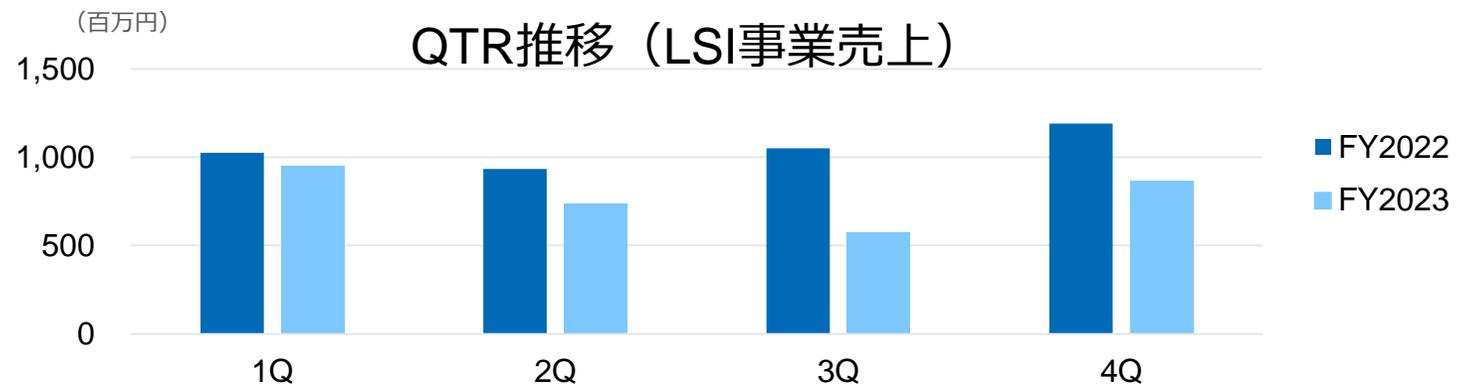


要因分析

産機 売上全体の83%を占める。産業用ディスプレイ向け新製品を市場投入。オフィス機器向けは在庫調整の影響により前期比減も、アミューズメント機器向け出荷が大幅増加、全体では前期比減少(△15%)。OA機器向け(△30%)、アミューズメント機器向け(+27%)、その他産機(△31%)、等。

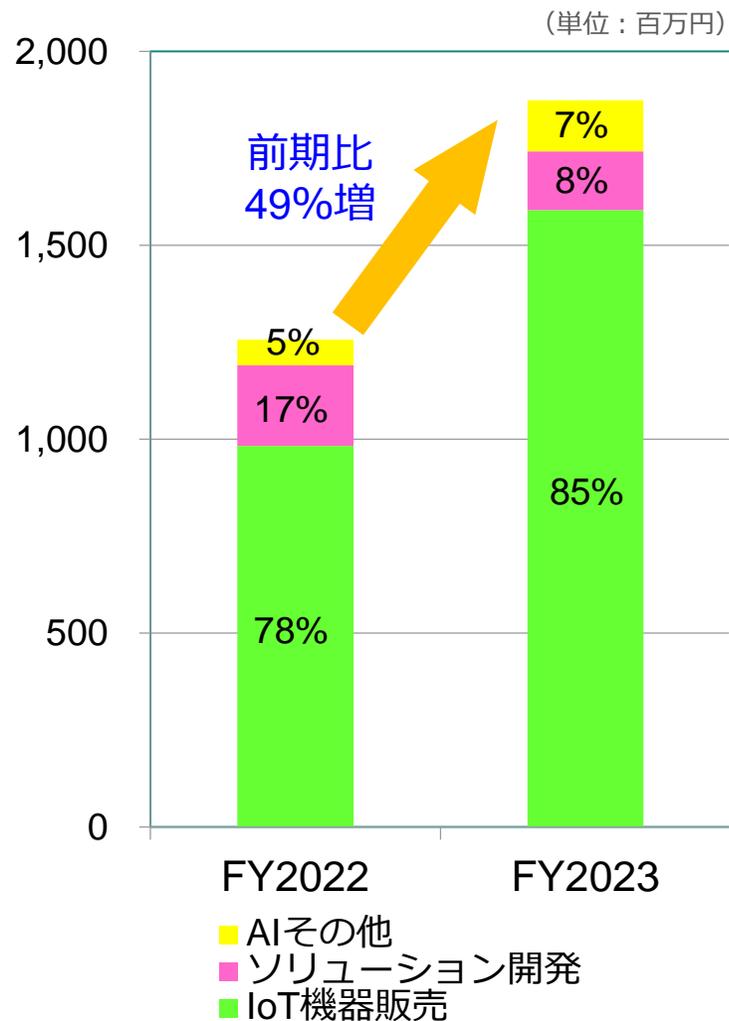
車載 売上全体の12%を占める。EV向け新製品を市場投入。中国市場向けは在庫調整等の影響で低調(△74%)。全体として前期比減少(△56%)。

民生 売上全体の5%を占める。4K/8Kテレビ等ディスプレイ向け情報伝送技術の新標準V-by-One®HS plusの提供を開始。前期比減少(△42%)。

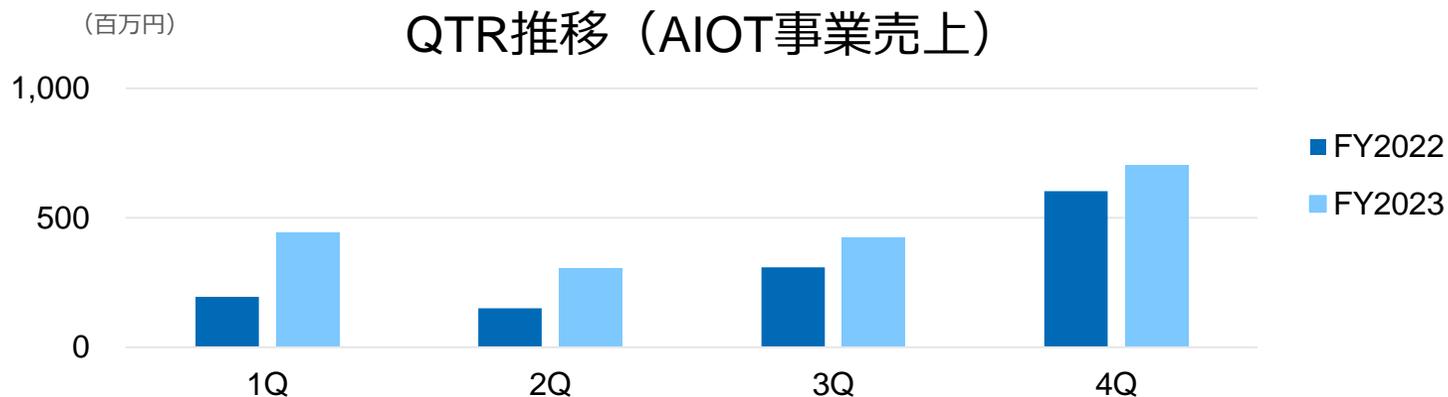


'23年12月期通期業績のポイント④

▶ AIOT事業売上分析（売上区分別）



要因分析	
IoT機器	売上全体の8割超を占める。大口顧客（ドライブレコーダ、自販機、エレベータ遠隔監視、AED等）向け出荷が順調に推移し、前期比で大幅な成長を実現（+62%）。
ソリューション開発	スマートケアリンク開発、OEMルーター開発、等実施。一部顧客案件では遅延・後倒し等が発生し、前期比では減少（△27%）。
その他	前期比増加（+98%）、AI顔認証検温システムの需要は一段落。新規製品・ソリューション開発に注力。



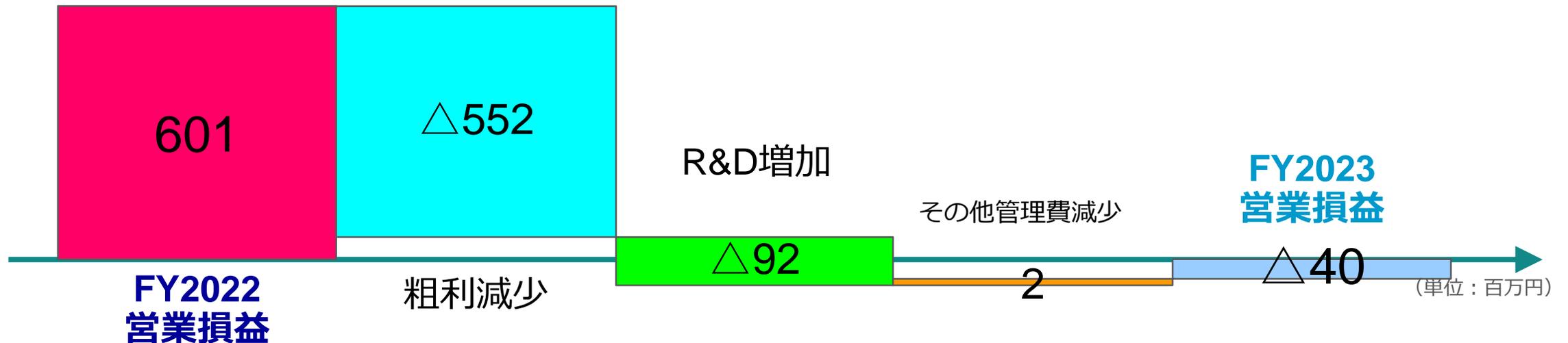
'23年12月期通期業績のポイント⑤

▶ 営業損益変動内訳

- 粗利は前期比で減少（前期比△19%）。相対的に利益率が高いLSI事業が前期比で減少（同△29%）し、利益率が低いAIOT事業が前期比で大幅増加（同+45%）。
- R&D費用、前期比増加（同+9%）、新製品開発に積極的に投資実施。

次世代高速インターフェース規格「V-by-One®HS plus」技術開発、EVパネル向けV-by-One®HS新製品ラインアップ拡充および同技術を活用した画像処理ソリューション開発、高速通信トランシーバ製品開発、高速データ伝送用リドライバ技術開発、エッジAI処理用モジュール製品開発、通話機能付きGW新製品開発、スマートIoTルーター等にトータルで¥1,102Mを効率的に投資。

※ 総務省より受託した5Gを遥かに超える高速無線通信技術開発は当期も継続（費用は一部総務省負担）。



'23年12月期通期業績のポイント⑥

- ▶ 研究開発の状況
- 今期は中期経営戦略『5G&Beyond-NE』戦略5ゴールに向けて総額**12億10百万円**（前期比+20%）の投資を計画

'23年計画



FY2023実績

- **11億2百万円**の投資実施

計画比 91%
前期比 109%



『5G&Beyond-NE』の目標達成に向けた重要技術開発

- EVパネル向け等V-by-One®HS製品ラインアップ拡充開発
- DXシステム向け世界初シリアル・トランシーバ製品開発
- 高精細TV/ゲーミングモニターの欧米新環境規制に対応した新標準技術V-by-One®HS plus開発
- クラウド通信型ドライブレコーダ開発
- エッジAI処理用モジュール開発
- 音声通話機能付きゲートウェイ製品開発
- スマートIoTルーター開発（スマートケアリンク等）
- 1000Gbpsを見据えた（beyond 5G）無線通信技術開発、等

'23年12月期通期業績のポイント⑦

▶ 資産・負債及び純資産の概要（2023年12月末日）

（百万円）

	資産		負債純資産		
	'23末	'22末		'23末	'22末
現預金	7,377	7,302	買掛金	270	282
売掛金	937	1,058	その他流動負債	401	515
棚卸資産	846	1,048	固定負債	137	136
その他流動資産	303	358	株主資本	9,139	9,494
有形固定資産	212	206	その他包括利益累計額	73	59
無形固定資産	69	148	新株予約権	150	128
投資その他	504	547	非支配株主持分	77	52
資産合計	10,250	10,669	負債純資産合計	10,250	10,669

- ▶ '23年末保有の米ドル建現預金残高：約US\$8M
- ▶ '18年のキャセイ社（AIOT事業）取得に伴う「のれん（無形固定資産）」は全額償却完了（当期償却額 ¥130M）

‘23年12月期通期業績のポイント⑧

▶ キャッシュフローの概要（2023年12月期） （百万円）

	FY2023	FY2022
営業CF	402	△191
投資CF	△148	△423
財務CF	△285	△100
換算差額	108	273
期首残高	7,302	7,743
期末残高	7,377	7,302

▶ 税金等調整前純利益、売上債権・棚卸資産減少、等

▶ 固定資産取得、ベンチャーファンド出資、出資金分配収入、等

▶ 前期配当金支払い、自己株式取得、等

▶ ¥133→¥142（2023年末）

TODAY'S AGENDA

- 会社概要
- 2023年12月期通期業績概要
- 中期経営戦略「5G&Beyond-NE」

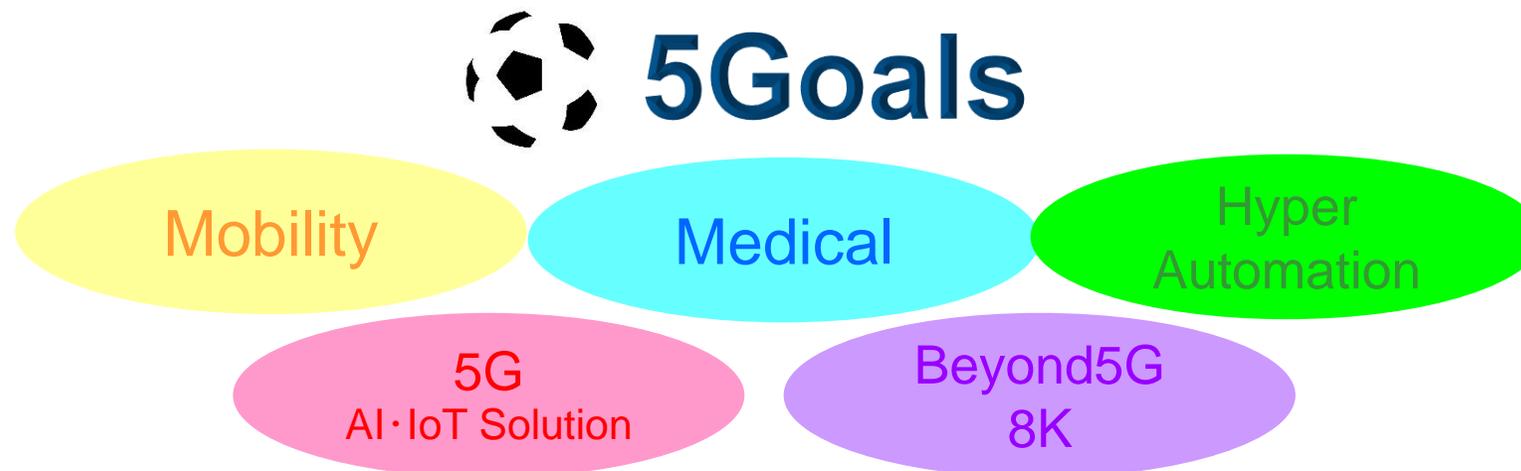
5G&Beyond-NE（中期経営戦略 2022-2024）

▶ 新中期経営戦略「5G&Beyond-NE」の概要

<基本戦略>

前中期経営戦略「5G&Beyond」をベースとして事業環境変化に適応した差別化力と新たな付加価値を通じて社会貢献を目指して参ります。

『**戦略5ゴール**』を再定義して成長市場に注力し、目標年次（2024年度）における営業利益3倍（‘21年度比）を目指していきます。



5G&Beyond-NE (中期経営戦略 2022-2024)



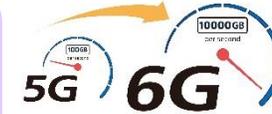
5G/AI・IoT Solution (IoTスマート基盤への貢献)

5G無線通信
顔認証ソリューション
スマートメーター



Hyper Automation
(産業用IoTの貢献)
統合型IoTトランシーバー
センサーデータ統合伝送

Beyond5G/8K
(新規成長ユースケースへの貢献)
1000Gbpsを見据えたBeyond5G技術
8K映像ソリューション



Mobility
(車載への貢献)
車載カメラ高解像度化・複数化
車載ディスプレイ



Medical
(医療への貢献)
医療用カメラ (内視鏡等)
医療用高解像度モニター



5G&Beyond-NE（中期経営戦略 2022-2024）

▶ 中期経営戦略「5G&Beyond-NE」目標達成に向けた取り組み

- ① 成長トレンドにある**車載市場・産機市場向け**ビジネスを大いに伸展させます。
⇒ 新常态（リモート／非対面／非接触／無人化等）に求められる変革への貢献を強化。
- ② **車載カメラおよびディスプレイ向け**の高速伝送LSI新製品の投入を継続遂行致します。
⇒ 主に中国市場をターゲットに展開。
- ③ **ドライブレコーダ、スマートメーター等のIoTスマート基盤**に対するデバイス及びソリューションの拡販活動を進めます。
- ④ 将来への成長に繋がる**5G・AI/IoT、医療分野**、等への積極的な拡販活動を進めます。
- ⑤ 新製品開発体制強化に取り組み、積極的な**研究開発投資**、**人財拡充**を進めます。
投下資本効率の向上に向けて、**開発プロジェクトの効率化、短期化**を目指します。
- ⑥ **アライアンス・協業機会**を積極的に探索し、当社グループ保有の**Interface技術を活用した優れたソリューション提供**を目指します。

5G & Beyond-NE (中期経営戦略 2022-2024)

▶ 車室空間のユーザー体験を拡げる：タッチパネル向け省配線ソリューション

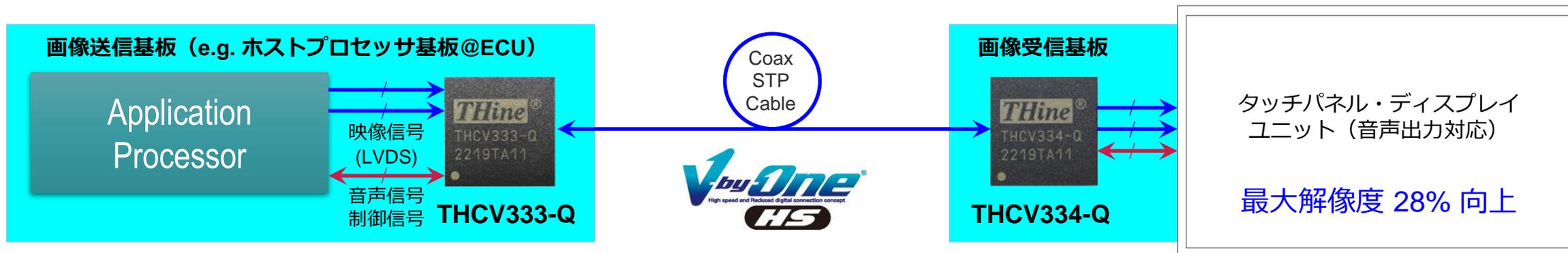
Mobility

車載・産機組み込みパネル向けV-by-One®HS技術応用 新製品出荷開始

Hyper Automation

▶ フルHD60fps超の映像・タッチパネル制御・音声信号を1チップのみで送受信可能

▶ 車載業界における従来他社代表製品と比べて最大データ伝送量およそ28%向上 Open LDI(LVDS)対応SerDesとして業界最速クラス



① 車載用組込タッチパネル

- ▶ インフォメーションディスプレイ
- ▶ リアシートエンターテイメント
- ▶ カーナビゲーション
- ▶ ディスプレイオーディオ



② 産業用組込タッチパネル

- ▶ HMI/プログラマブル表示機
- ▶ タッチパネル自動販売機
- ▶ エレベータ筐体内パネル
- ▶ 交通系モニタ

5G & Beyond-NE（中期経営戦略 2022-2024）

▶ 医療用カメラの革新に貢献

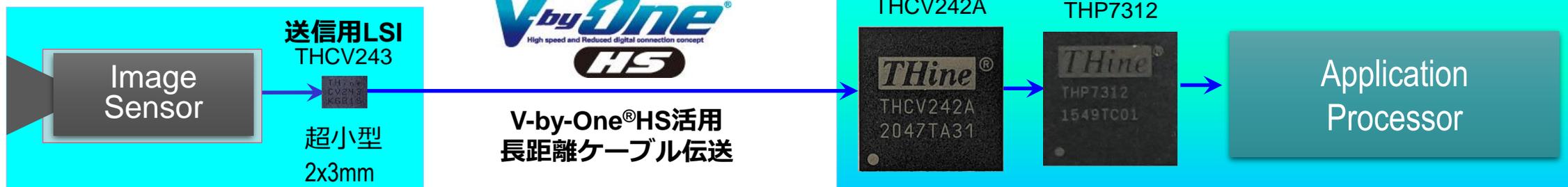
Medical

医療用カメラ対応ソリューションの拡販

- ▶ 高解像度 4K内視鏡カメラの実現に貢献
- ▶ 超小型V-by-One[®] HS製品によりシステム操作部までの数メートルにわたりケーブル1本で伝送可能
- ▶ 画像処理用LSI併用も可能
- ▶ 顧客側AI機械学習により、フルHD内視鏡カメラ、ハイビジョン内視鏡カメラに比較して、早期癌の識別に貢献

内視鏡システム操作部

内視鏡カメラ部



5G & Beyond-NE (中期経営戦略 2022-2024)

▶ 独自の高速情報伝送規格による動画市場への貢献

Mobility

Medical

Beyond 5G/8K

『V-by-One®HS plus Standard』を2023年6月より提供開始

- 4K/8K TV・ディスプレイ内部情報伝送の「事実上の世界標準」を**2倍速化**
- 欧米の環境規制に対応

8K60fps または 4K240fps の高解像度テレビ内の動画データ伝送方式の比較

V-by-One®HS plus による動画データ伝送

16 レーンのみ

基板間情報伝送に必要な LSI ピン数削減、低消費電力化

画像エンジン基板

ディスプレイパネル基板



従来方式での動画データ伝送

32 レーン

画像エンジン基板

ディスプレイパネル基板



(注) 図のサイズはイメージです。

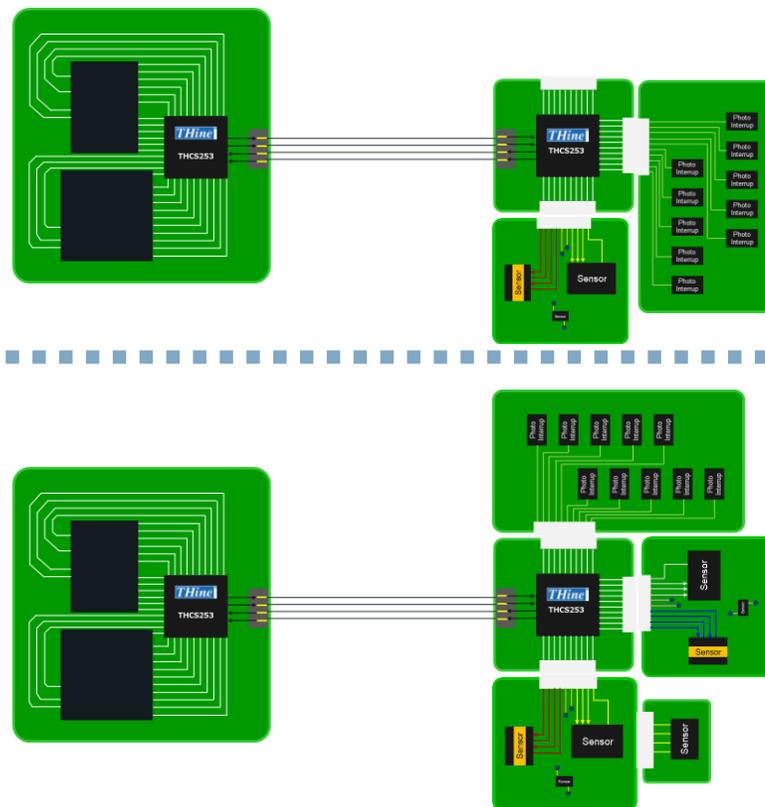
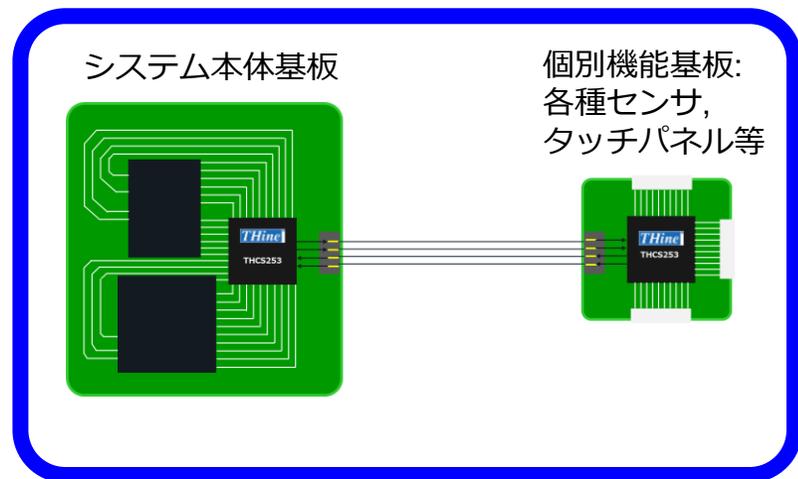
5G & Beyond-NE (中期経営戦略 2022-2024)

- ▶ DX-IoTセンサー信号統合ソリューションに貢献

Hyper
Automation**IOHA:B** シリアル・トランシーバ新製品を量産開始

- 43億通りの接続に対応し、設計プラットフォーム化に貢献

DX-IoT Platform with THine



ユースケース①

カメラセンサ、加速度センサを接続

回路設計も
変更も不要

ユースケース②

上記のカメラセンサの接続位置を
変更し、加速度センサを外し、
圧力・温度センサとパネル用タッチ
センサを接続

5G & Beyond-NE (中期経営戦略 2022-2024)

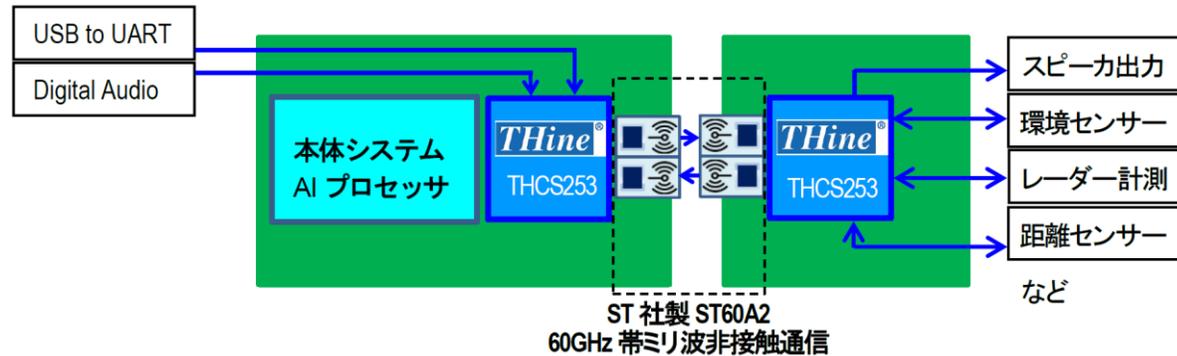
▶ 非接触データ通信のユースケース進化への貢献

Medical

Hyper
Automation

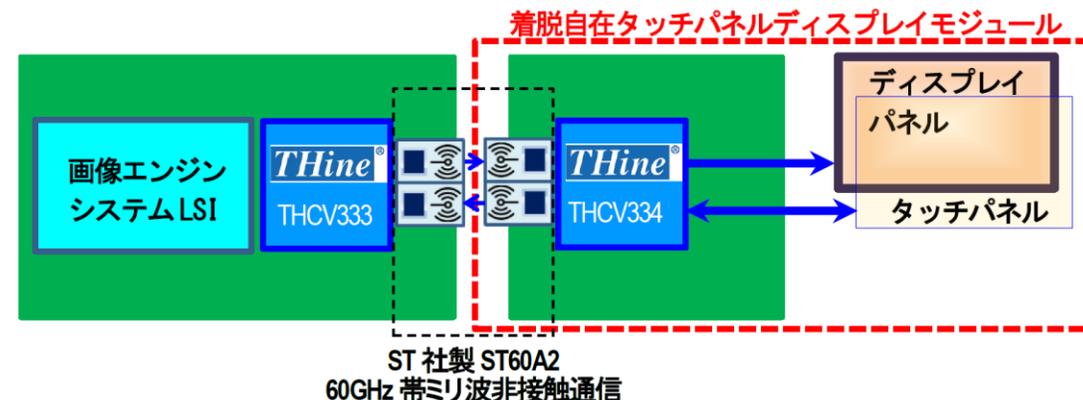
STマイクロエレクトロニクス社 (ST社) の高速近接無線技術とのコラボレーション

- 当社的高速情報伝送技術とST社の60GHz帯ミリ波を使用する高速近接無線技術と組み合わせることにより新たなユースケースの進化をサポート
- ST社の無線通信トランシーバ製品ST60A2にV-by-One®HSを始めとする当社情報伝送技術を適用し、高速伝送アプリケーションにおいて、基板対基板の非接触接続やコネクタ不要のソリューション等の新しいユースケースの実現が可能に。



無配線・無コネクタによるシームレスなデバイス接続
ソリューションのイメージ

着脱自在タッチパネルディスプレイ向け
ソリューションのイメージ



5G & Beyond-NE (中期経営戦略 2022-2024)

- ▶ 次世代スマートBEMS実現や工場などの産業プロセスDX化の加速に貢献

Hyper
Automation

5G AI/IoT

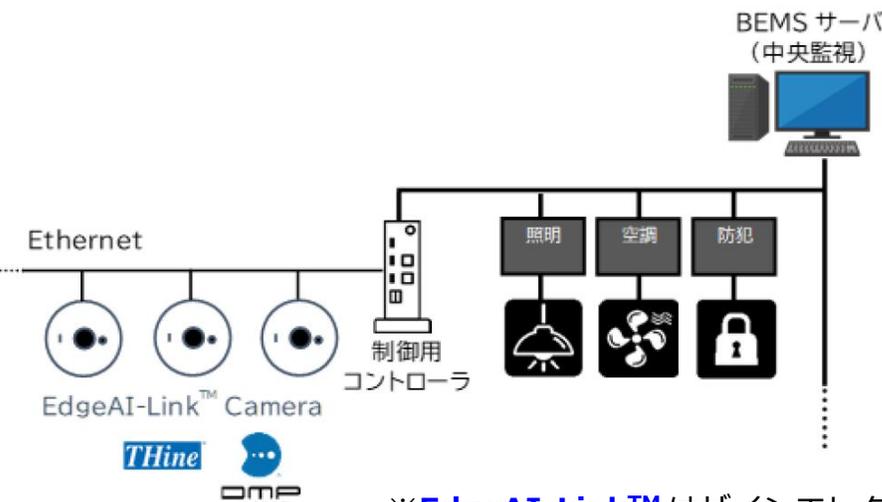
エッジAIカメラソリューションにおけるDMP社とのコラボレーション

- ▶ 当社企画エッジAIソリューションのEdgeAI-Link™と株式会社デジタルメディアプロフェッショナル (DMP社) のAI技術活用ソフトウェアの組み合わせでエッジAIカメラソリューションの実現に向けた協業をスタート
- ▶ DMP社の高信頼性AIアルゴリズムソフトウェアと当社独自の画像処理用プロセッサ (ISP) を搭載したエッジAIカメラソリューションの実現により、オフィスビルの省エネ化や工場など産業工程におけるDX化に貢献

EdgeAI-Link™ Camera



次世代スマートBEMS



- 適用例
 - 次世代スマートBEMS
 - 設備監視の省力化・省人化
 - インフラ点検の省力化・省人化
 - 工場等産業工程のDX化、等

※EdgeAI-Link™ はザインエレクトロニクスの商標です。

5G & Beyond-NE (中期経営戦略 2022-2024)

▶ 各種機器のIoT接続への貢献①

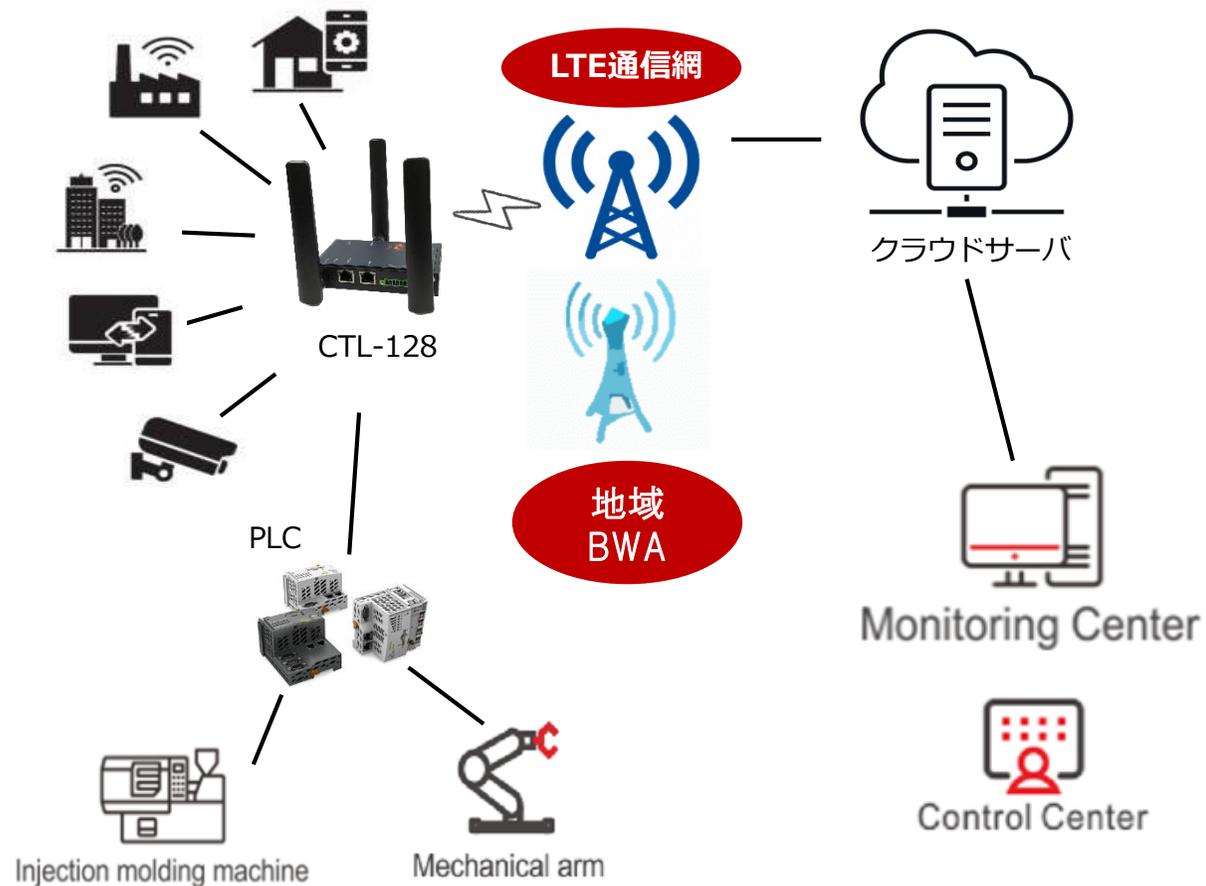
5G AI/IoT

LTEモジュール内蔵セルラー無線LANルーターCTL-128



■ 製品の特徴

- 1) 国内通信キャリアNTTドコモ/KDDI/ソフトバンク*/楽天モバイル* 及びMVNOを利用可能 [SIM7600JC-HG搭載]
- 2) 地域BWA, プライベートLTE(自営BWA, sXGP) 適応可能
- 3) 無線LAN標準実装 (IEEE802.11b/g/n)
- 4) VPNに対応: PPTP, L2pt, IPSec, Open VPNなど
- 5) 産業用に開発した豊富なプロトコルを搭載可能
- 6) ユーザーニーズに合わせたアプリケーションを開発して組み込み、利用することが可能。
- 7) シリアルポート[RS485/RS232C]を標準装備
- 8) 世界中で300以上のメーカーのPLCをサポートし、市場の多くの工業設備との連結が可能で、データの収集、報告、警報機能や設備管理などを容易に実現可能。
- 9) 小型軽量設計: サイズ:127.0x83.0x24.0 mm 約250g
- 10) 広い動作温度範囲: -30℃~70℃



5G & Beyond-NE (中期経営戦略 2022-2024)

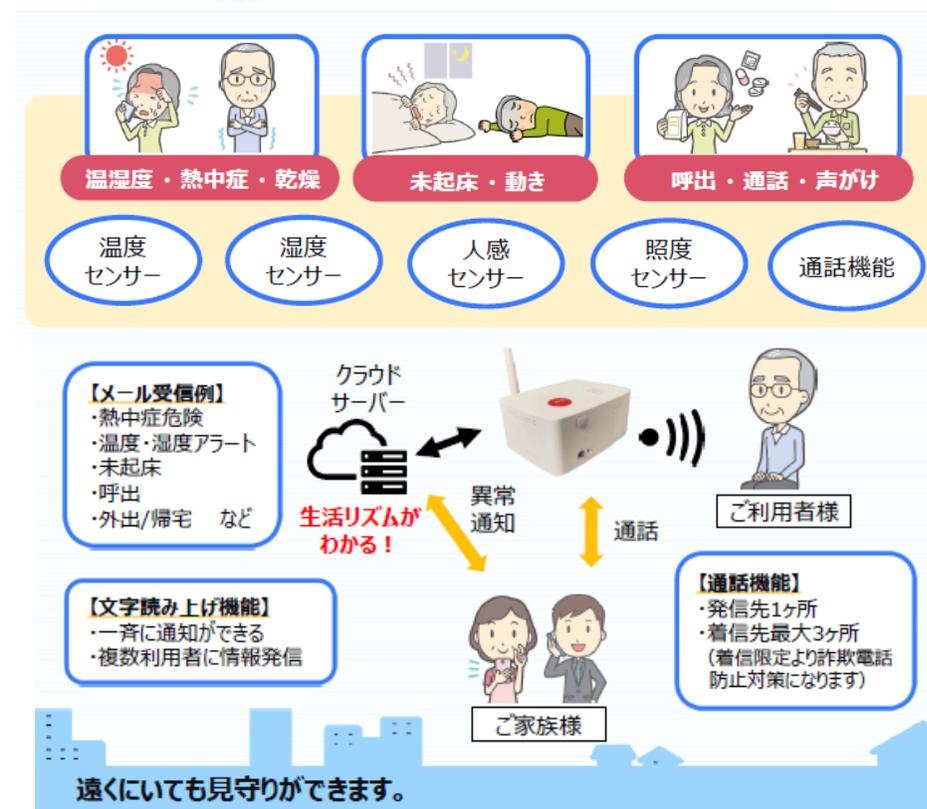
▶ 各種機器のIoT接続への貢献②

5G AI/IoT

スマートケアリンク端末 (産電工業様案件)

■ 製品の特徴

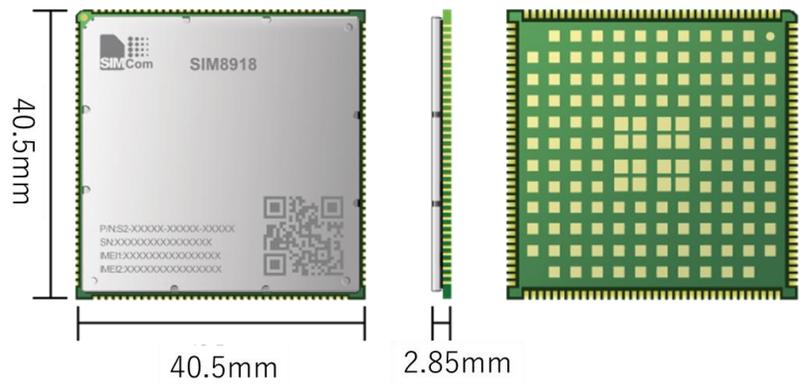
- ・ SIMCom社製通信モジュール SIM7600JC-Hを採用
- ・ LTE回線を用いることで設置工事やインターネット契約などの手間を削減
- ・ 音声通話機能
- ・ 文字読み上げ機能
- ・ 人感・温湿度・照度センサーを搭載し、環境変化や動きの検知などを多角的にモニタリング
- ・ ご利用者様の状態変化を遠方のご家族へメール送信で通知



5G & Beyond-NE (中期経営戦略 2022-2024)

▶ 各種機器のIoT接続への貢献③

LTEスマートモジュール SIM8918JP

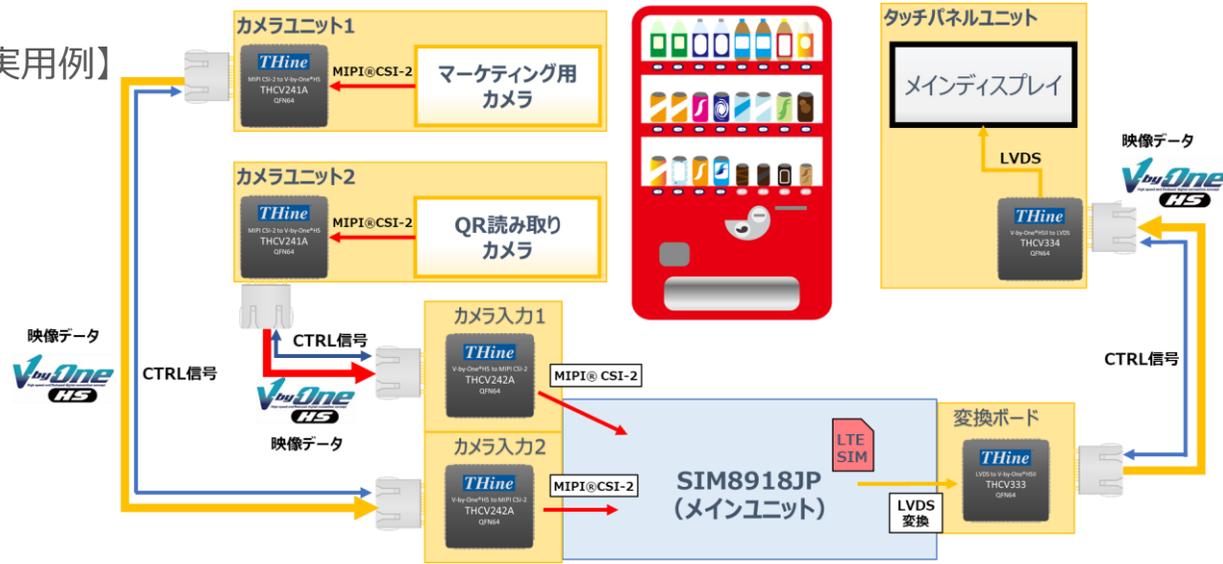


- 4G LTE
- ARM Cortex-A53
- Touch Screen
- Dual Camera
- GNSS
- WiFi BT
- Android
- Video & Audio
- LCC + LGA

■主な機能

- ◆ Qualcomm 4 コア 64 ビット ARM Cortex-A53
- ◆ AdrenoTM 702 GPU
- ◆ 4レーンMIPI_ DSI(最大1680x720 @60fps)
- ◆ 30fps ZSL で 2x ISP (13 MP + 13 MP または 25 MP)
- ◆ 30fpsでの1080Pビデオの録画と再生をサポート
- ◆ グローバル・マルチネットワーク・モード(LTE Cat 4)をサポート
- ◆ Android OS、Wi-Fi[802.11 a/b/g/n/ac], Bluetooth[BT5.0]、GNSSマルチモードを一つのモジュールに統合
- ◆ スマート POS、広告メディア、自動車エレクトロニクス、スマート診断、スマートセキュリティデバイスなどの産業用に適しています。

【スマートモジュール実用例】

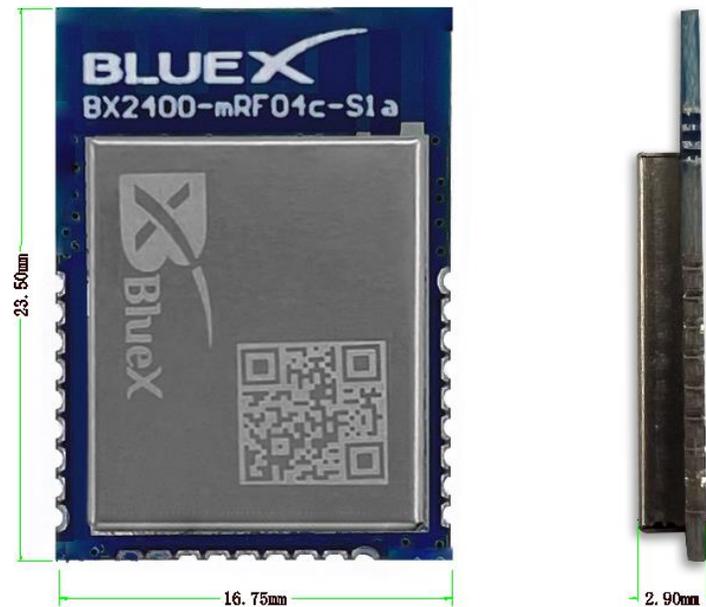


5G & Beyond-NE (中期経営戦略 2022-2024)

▶ 各種機器のIoT接続への貢献④

5G AI/IoT

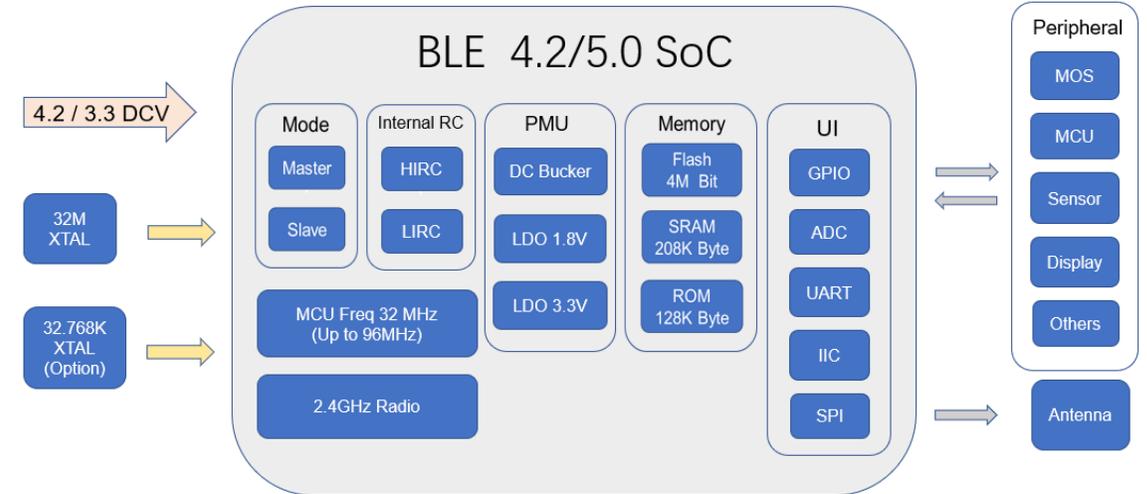
Bluetoothモジュール BLUE X : mRF04c-S1a



特徴:

Bluetooth Module BLUE X 内部にARM CPUを搭載しているので、外部に別のホストCPUを準備しなくても単独でアプリの実行が可能。

- ▶ 開発環境を構築することで、顧客自身で独自アプリ開発し、組み込ことが可能。
- ▶ カスタム開発に関して当社の技術サポートは可能



適応周波数: 2.4 GHz ISM band/ プロトコル: BLE 4.2 / 5.0

動作温度: -25℃ ~ +80℃

消費電流: 4.3V のオンチップ DCDC コンバータ場合: RX: 4.3mA、TX: 4.4mA
オンチップDCDCコンバータ@3.3Vの場合: RX: 5.5mA、TX: 5.7mA

デジタルインターフェース:

- 最大 14 個の GPIO
- 内部 Quad-SPI フラッシュ インターフェイス
- 汎用 SPIインターフェイス(SPIM/SPISモードの両方をサポート)
- 2x UART - 最大 1Mbps のフロー制御と1Mbps以下のすべてのボーレートをサポートし、IRDAがサポートされています。
- 2x IIC - マスター/スレーブ プログラム可能、最大 1Mbps の速度
- 2x タイマー
- 1x ウォッチドッグ タイマー
- 5x PWM 出力

5G & Beyond-NE (中期経営戦略 2022-2024)

▶ Beyond 5G・8Kソリューション、Beyond成長力の創出！

Beyond 5G/8K

1000Gbpsを見据えた(5Gを遥かに超えるBeyond5G)、高速無線通信技術開発への取り組み

国立研究開発法人
情報通信
研究機構



8K TV、医療診断、e-Sports、等
多くの分野への応用が期待

Ministry of Internal Affairs
and Communications

総務省

国立大学法人
広島大学

国立大学法人
名古屋工業大学

学校法人
東京理科大学



2023年5月 Wireless Technology Parkにおけるデモ
(於 東京ビッグサイト)

5G&Beyond-NE（中期経営戦略 2022-2024）

▶ SDGs目標への貢献（社会貢献）

Interface to the Future - Solution by Smart Connectivity -

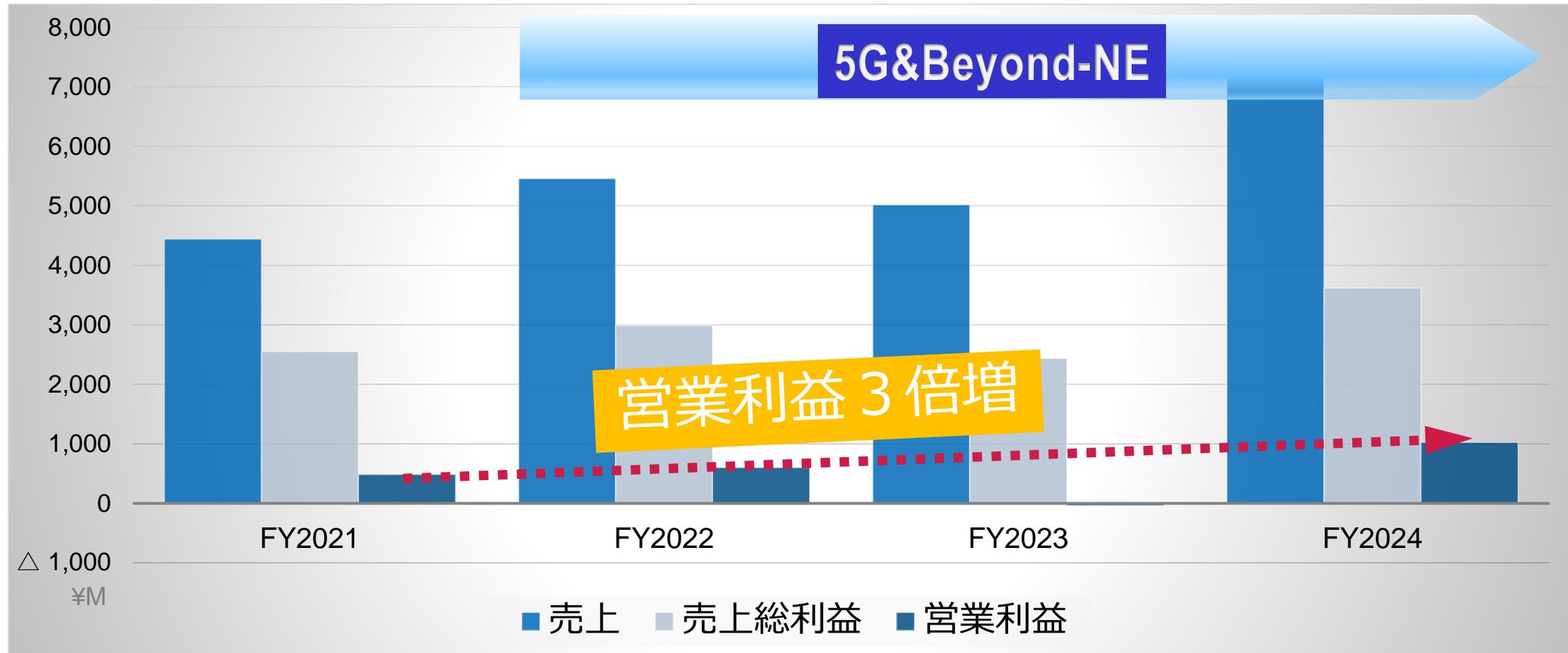
スマートに「つなぐ」ことにより、地球的負荷削減への貢献を目指します。



- ✓ V-by-One[®] HS plus Standard提供を通じた高精細ディスプレイの省電力化などによるエネルギー削減への貢献
- ✓ 車載センサー画像のスマート伝送への貢献
- ✓ 高速伝送技術によるケーブル本数削減への貢献
- ✓ 電源システム熱効率改善によるエネルギーの削減への貢献
- ✓ AI・IoT技術による人的・物的移動エネルギーの削減への貢献

5G&Beyond-NE（中期経営戦略 2022-2024）

- ▶ 戦略5ゴールを定義して成長市場に注力、目標年度（2024年度）における営業利益の3倍増（'21年比）を目指して参ります。



5G&Beyond-NE（中期経営戦略 2022-2024）

▶ 2024年12月期通期業績見通し

『5G&Beyond-NE』2年目は、残念ながら減収減益となりましたが、中計目標年度の2024年は事業の回復・再成長を実現し、営業損益3倍増（'21年比）を目標として事業を進めて参ります。

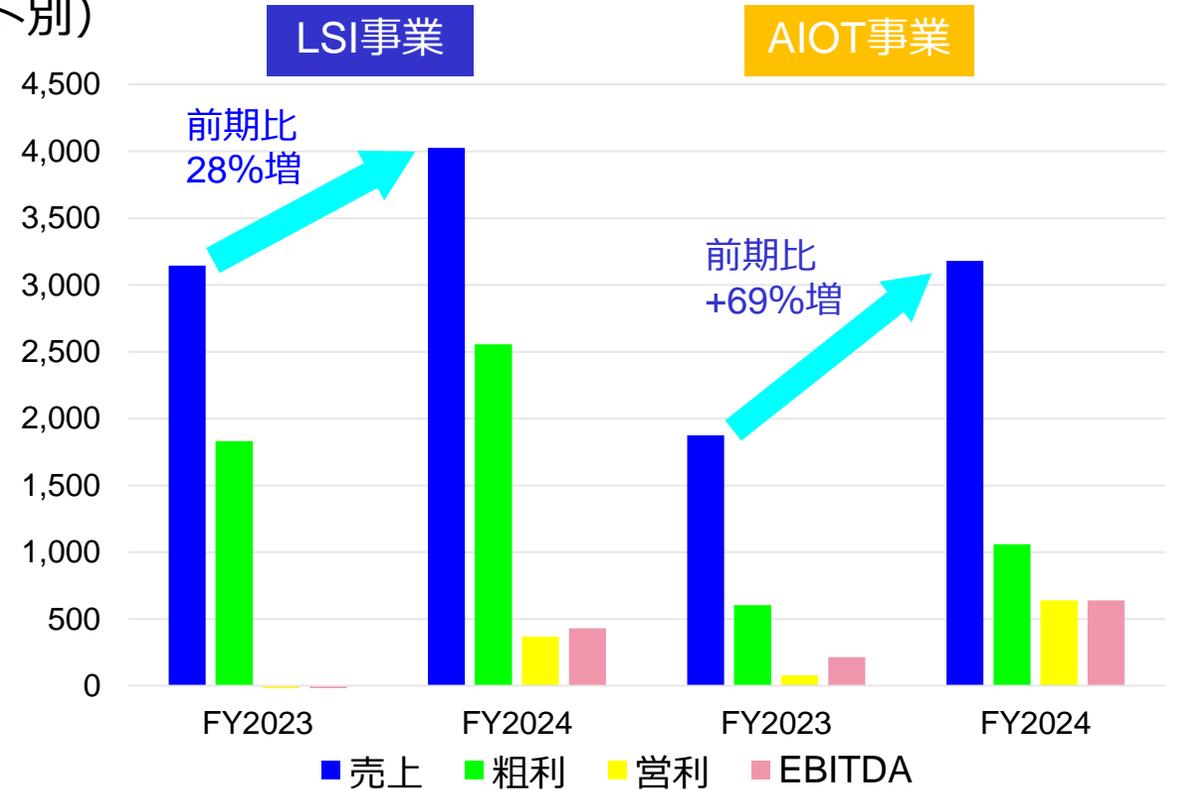
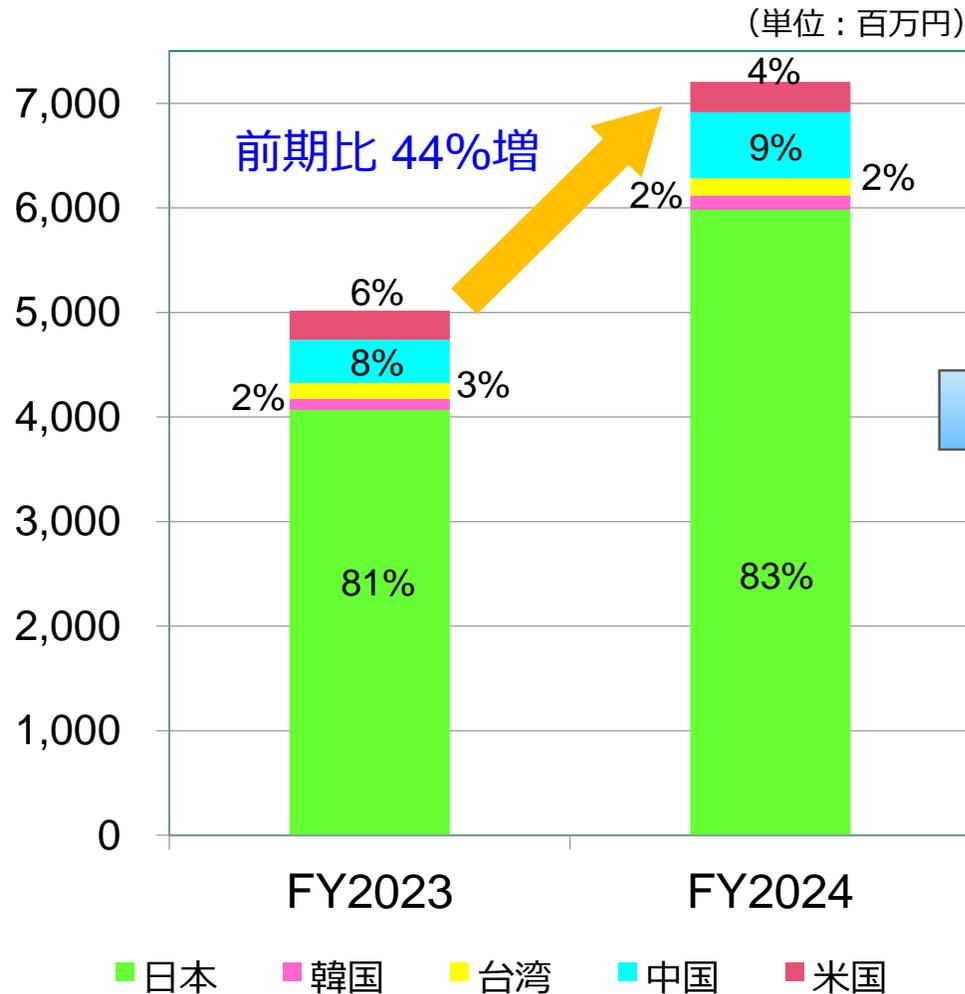
- ▶ LSI事業：国内・海外市場とも在庫調整等の影響から回復し、増収増益を見込む（22年度水準まで回復）。
- ▶ AIOT事業：スマートインフラの拡大・普及に向けて通信モジュール等IoT製品の出荷を伸ばし、増収増益を見込む。

(百万円)

	2024年度見通し			2023年実績		2022年実績	
		構成比	前期比		構成比		構成比
売上高	7,207	100.0	143.6	5,018	100.0	5,456	100.0
売上総利益	3,617	50.2	148.5	2,435	48.5	2,987	54.8
販売管理費	2,592	36.0	104.7	2,476	49.3	2,386	43.7
（うち研究開発費）	1,220	16.9	110.7	1,102	22.0	1,009	18.5
営業利益	1,024	14.2	—	△40	△0.8	601	11.0
EBITDA	1,090	15.1	627.5	173	3.5	775	14.2
経常利益	1,026	14.2	—	71	1.4	906	16.6
（経常利益※ 為替差損益を除く）	1,026	14.2	—	△32	△0.7	636	11.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	744	10.3	—	△69	△1.4	820	15.0

5G&Beyond-NE（中期経営戦略 2022-2024）

▶ 2024年12月期業績見通し（地域別・セグメント別）



- ▶ LSI事業は国内OA機器市場向け及び中国市場向けの回復を期待。前期比増収増益で黒字回復を目指す。
- ▶ AIOT事業は通信モジュール製品出荷が引き続き大きく成長。ドライブレコーダ、エレベータ・自販機等の遠隔監視、等に加え、IoTインフラ向けソリューションの提供の拡大を目指す。

5G&Beyond-NE（中期経営戦略 2022-2024）

▶ 企業価値向上に向けた取り組み

◆ 中期経営戦略「5G&Beyond-NE」を実現し、企業価値向上に取り組んで参ります。

5G&Beyond-NE

(2022—2024)

営業利益10億24百万円（2024年度見通し）
※2021年比約2.1倍増

次期中期経営戦略

(2025—202x)

ROIC 10%以上

参考)	2021年	4.0%
	2022年	4.5%
	2023年	-0.3%

【企業価値向上に向けて】

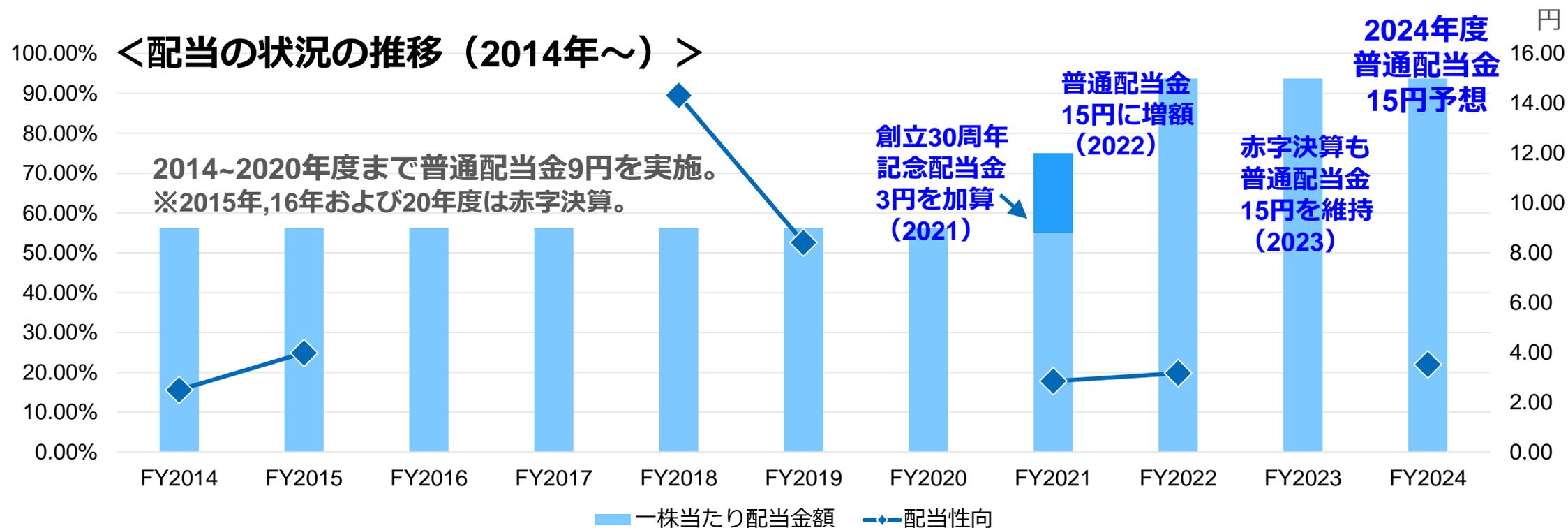
- ① 収益力の更なる強化
AIOT事業の黒字化（2023年度実現）、海外事業の強化、成長事業への投資の加速を図ります。
- ② 株主還元
安定的な配当の実施、機動的な自己株取得等の資本政策により資本効率の改善を目指します。
- ③ IR活動の強化
IR情報の充実化、製品開発・SDGs等、積極的な情報開示に取り組んで参ります。

5G & Beyond-NE（中期経営戦略 2022-2024）

▶ 株主の皆様への還元方針

全社一丸となって成長戦略の実現に向けて取り組んでまいりますとともに、業績成長を踏まえて株主の皆様への還元を実行してまいります。

2023年12月期については赤字決算となりましたが、従来予想（15円配当）を据え置きで実施いたします。2024年12月期についても、1株当たり15円の配当予想といたします。



Interface to the Future

- Solution by Smart Connectivity -

URL <https://www.thine.co.jp/>

【お問合せ先】

〒101-0053 東京都千代田区神田美土代町9-1

総務部IR担当 (TEL: 03-5217-6660)

本資料に記載されている見通しや業績予想などのうち、歴史的事実でないものは現在入手可能な情報から得た当社の経営陣の判断に基づき作成しております。実際の業績は、当社の事業領域を取り巻く国内および海外の経済・金融情勢等、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは異なる結果となり得ることをご承知おきください。また、本資料に記載されている各企業名、製品名等は、それぞれの所有者の商標あるいは登録商標です。